

会議録

会議の名称	平成22年度第3回 西東京市健康づくり推進協議会
開催日時	平成22年10月22日 午後1時から2時45分まで
開催場所	西東京市保谷保健福祉センター6階 講座室2
出席者	玉置会長、内田副会長、石田委員、橋岡委員、志藤委員、石井委員、池田委員、大島委員、平田委員、高梨委員、高西委員、高橋委員、
議題	(1) 健康都市宣言の市民意識調査の結果について (2) 健康都市宣言の骨子について (3) 市民からの意見募集について
会議資料の名称	健康都市宣言の市民意識調査の結果について …資料1 健康都市宣言の骨子について …資料2 市民からの意見募集について …資料3
記録方法	☐ 全文記録 ☒ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☐ 会議内容の要点記録
会議内容	
1 開会 傍聴人なし 出席委員が過半数のため本協議会は成立 2 議事 (1) 第2回議事録について 特に修正意見なし 第2回協議会（9月3日）の意見一覧とおり、委員からの意見は順次反映したい。 (2) 健康都市宣言の市民意識調査の結果について …資料1 参照 ○事務局： 生涯健康であることを望む市民は95.7パーセントであった。 健康にとって必要なものは食・栄養、運動・スポーツ、ゆとりが多かった。健康のために実践していることは栄養バランス、睡眠、趣味、食事量・回数、ウォーキングが多かった。市で取り組みをして欲しいことは医療の充実、緑のある空間、保健の充実が多かった。 これまで議論のあった健康テーマは、市民の関心に沿っている。 結果分析による報告書は次回示す予定である。詳細な分析の結果は、市民の取組目標や行政の支援目標、取り組みの方法に反映される。 ○会長：	

街頭調査で1,000人程度なので統計的なことや、具体的な事案を投げかけた時にこれだけで済むのかということもある。

○委員：

健康にとって必要と思える栄養・運動・ゆとりの3項目に対する市への要望を見てほしい。

○事務局：

解析をしているので、次回までにわかるように示す。

○委員：

みどりのある空間が高くでている。西東京市の特徴として出しやすいと思う。みどりのある空間を全面に出していくことは賛成であるが、ランニングやウォーキング、子供たちも遊べるような空間を作してほしい。

○会長：

ただ場所があるだけではなく、機能的にきちんとしたものが必要である。

○会長：

自発的な部分と市が取り組むことを2つに分ける必要がある。

○事務局：

市民が自発的に取り組む部分と行政と関係機関が取り組む部分を2つに分けて作ってく予定である。

(3) 健康都市宣言の骨子について …資料2、資料2-2参照

○事務局：

健康都市宣言の位置づけは、市誕生10周年にあわせて、各計画に位置づけている様々な健康テーマを包含した宣言を行い、笑顔で健康長寿が全うできるまちを目指す。市民が自らの健康は自らの手でつくることを基本とし、生涯にわたる健康づくりを進める。また互いに支え合い行動する規範とする。

健康テーマについては、関連する行政計画と市民意向調査から整理した。市民を中心とした「私たち自らの取組」と「行政と関係機関の取組」に分けわかりやすく普遍的な表現で示す。「私たち自らの取組」は4つの柱とし、ア食・栄養、イ運動・スポーツ、ウ心・休養（ゆとり）、エ学び・創造（ゆとり）とする。「行政と関係機関の取組」は2つに整理し、オ保健・医療・福祉・教育の連携、カみどりや安心して外出できる環境など空間の基礎づくりとした。「私たち自らの取組」は市民が主体的に取り組む内容であるため、平易な文書でわかりやすくする。

「ア食・栄養」については、健康づくり推進プランのほか、食育推進計画や市民意向調査から「楽しく食えること、野菜を食べること」に取組む。「イ運動・スポーツ」については、推進プランのほか、スポーツ振興計画や調査から「運動・スポーツを生活に取り入れて定着すること」に取組む。「ウ心・休養」については、推進プランや調査から「自分にあった休養をとること」に取組む。「エ学び・創造」については、推進プランや生涯学習推進計画、教育計画、高齢者保健福祉計画、調査から「好きなことを創造すること」に取組む。

実現化の手段は、宣言とともにキャッチフレーズや期間を定めた市民の取組目標を掲げ

る。また、市民の取組を支援する行政の施策をアピールする。

○委員：

健診の受診率をあげることは大切なのに骨子に入っていない。栄養・運動は重要なのはわかっている。わかっているのを宣言するのは当たり前。違うことを言ってアピールをする必要がある。

○事務局：

アンケートでは年齢差がある。宣言文は普遍的なものであり、具体的な健診ということは考えていない。項目としては重要と考えている。

○委員：

市民の行動目標としてだしたほうがよい。

○事務局：

宣言文は西東京市が存続する限り、続く言葉が望ましい。保健医療福祉教育の連携のところでとどめたいと考える。

○会長：

行政が与えるものではなく、健診を受けるというのは、市民の自発的な意識を高める文言を入れた方がいいのではないかということである。

○事務局：

4今後の進め方のところにある「私たちの取組み目標」に入れていきたい。

○委員：

健診受診は行政の取組みではなく、市民の自発的取組みである。

○委員：

図式のサークルの中に健診といったものを入れてほしい。

○会長：

委員の意見をまとめると、図式の中に自分の体のチェックというのがあってもよいのではないかということ。

○委員：

健康づくりにとって健診の充実は必要である。そこをアピールしなければ都市宣言が薄くなる。

○会長：

そこを強調して5つの輪にしたかどうかという意見である。確かに年代差によって、健診を受ける年代が違う。一番問題なのは40、50代の若い世代から自己チェックをすることは重要ではある。それを入れるかどうか。

○事務局：

宣言文の構成案、上から3行目、自分の体のチェックをすることはアイウエには入れずに宣言文の中でアピールする。

○委員：

積極的な健康づくりは、食事や運動はわかるが、健康チェックはここからはわからない。宣言文ではなく、サークルの中にいれたほうがよい。

○委員：

宣言文で書いてあるよりも図式にあるほうがインパクトはある。

○会長：

真ん中の連携の部分について行政はこれを応援しているということで図式には入れなくても良いかもしれない。

○委員：

市民が望んでいることを行政がどのように取り組むか、アイウエは行政と結びつきながらやっていることなので、オの中心は入れた方がよい。

○委員：

市民の願いを4つの柱にするか、5つの柱にするかについて、自己チェックをすることは大切であるが、どのような柱の名称にするかは難しい。

○会長：

西東京市として、他市にないことを入れるのもひとつである。東京都の福祉医療計画や保健所の計画と同じようなものを作っている感じになる。

○委員：

文言は難しい。他の4つの柱と整合性がとれるか。対等になることなのか。健診や自己チェックの言葉が難しい。飛び出させる方法もある。

○会長：

確かに表現が難しい。

○事務局：

市民の生活習慣の1つとしていれるよりは、大前提としていれたほうがよいのではないかな。

○事務局：

パブコメを市報11月15日号に資料3のとおり掲載する予定である。健診のことをどのように記載するか。

○会長：

雲のような形で自己チェックのことをだす。

○事務局：

文言については事務局が整理して一任させてもらう。

(4) 市民からの意見募集について …資料3参照

(5) その他

1. 健康づくり推進プランの評価に関する検討状況について

7月～11月まで5回実施する。

総合目標、市民の行動目標、施策目標、成果目標について検討し、平成23年度のアンケートを精査する。

2. 次回の日程について

12月20日（月曜日）、21日（火曜日）、22日（水曜日）のいずれか